ヘミングウェイゆかりの地を訪ねて

高野泰志

第3回　ストレーザ編

前回のような珍道中をご期待されている方には大変申し訳ないのですが，今回のストレーザへの旅は非常にスムーズでした。おまけに例によって下準備などは何もしていませんでしたし，ストレーザには宿泊せずにほんの一瞬通り過ぎただけですので，あまり役に立つような話はできないのですが。

ストレーザは言わずと知れた，『武器よさらば』の重要な舞台のひとつです。戦線を離脱したフレデリックが脱走兵として憲兵に追われ，キャサリンとともにスイスへと逃亡する場所ですね。フレデリックとキャサリンが宿泊したのはストレーザでももっとも歴史のあるホテル，Grand Hotel des Iles Borromeesで，その目の前に接するマジョーレ湖からボートでスイスへと脱出したのでした。前回の地中海に面する南イタリアの地ラパロに続いて，今回はこの北イタリアのリゾート地ストレーザの様子をお伝えします。

1. アクセス

ミラノからブリュッセル行きの列車で40〜50分くらいでしょうか。ラパロの時の地中海沿岸沿いを走る旅は美しい景色が楽しめましたが，今回は少し寂しい風景が続きます。しかしマジョーレ湖に近づくと湖水沿いに列車が走りますので，やはり美しい景色を眺めながらの旅になりました。地中海の明るい海の情景と比べて少し寂しい景色に見えるのは北イタリアならではの景色だからなのか，あるいは小雨が降り始めていたためでしょうか。

2. ストレーザ駅

ちょうど駅に着いた頃から雨脚が強くなってきました。ラパロの時もそうですが，旅行中，どうも私が写真を撮ろうとすると雨が降ってくるようで，おかげで光量が足りずに暗い写真ばかりになってしまいました。

> 駅ではホテルからやって来たボーイが待ちかまえているだろうと思っていたが，誰もいなかった。シーズンはとっくに終わっていて，列車の到着を出迎えるものなどいなかったのだ。私は自分のバッグを担いで列車を降りた。シムのバッグだ。シャツが2枚しかはいっていないので軽かった。列車が行ってしまうまで，雨の中，駅の軒下に立っていた。

これはフレデリックがストレーザに到着したときの様子です。時代が違うのか，あるいはもう夕方になっていたからか，シーズン真っ盛りの8月でしたが列車を出迎える人は誰もいませんでした。駅構内はひっそりとして，どことなく寂れた見放されたような雰囲気を醸し出していました。写真では結構たくさん車が写っていて，にぎわっているように見えますが，駐車中の車に人影はなく，タクシーが1〜2台停まっていて運転手が暇そうにたばこをふかしていました。

傘を持っていなかった私はしばらく途方に暮れてぼんやりと軒下に突っ立っていたのですが，しばらくしてやや小雨になってきたところで意を決して歩き出しました。といっても実のところ駅周辺には案内図もなく，マジョーレ湖までどれくらいの距離があるのかも分かりません。列車からの景色で湖の方角だけは分かっていましたので，まあ適当に歩き始めます（もしラパロの時みたいに離れた場所にあったらどうなっていたことか……）。

3. ストレーザの町

駅はちょっと小高い丘のようなところにあり，駅の出口の真正面にある狭い階段を下りて線路に直角にまっすぐ進むと湖の方向です。案内のないのが心細いかも知れませんが，自分の方向感覚を信じて歩けば迷うことはないでしょう。線路沿いには太い道が通っていますが，湖に向かう道はまるで路地のようです。湖までの道しか通りませんでしたのでごく一部だけを見た印象でしかありませんが（おそらく中心部はもっと開けていると思います），とてもこぢんまりとしていい雰囲気でした。実は駅から湖までの道のりがイタリアの中で一番気に入ってしまいました。

しばらく進むと左手に大きく無粋な建物が。CARABINIEREと書かれてあります。イタリアには警察組織が2つあります。PoliziaとCarabiniereで，一応の役割分担はあるらしいのですが，具体的にどのように違うのかよく分かりません。しかし戦時中はCarabiniereはいわゆる「憲兵」であったようで，『武器よさらば』でもっとも印象的なタリアメント川の場面で将校を銃殺していたのがCarabiniereでした。

この建物を見たときには何も考えていなかったので写真にも撮りませんでしたが，後からフレデリックの宿泊していたIles Borromeesの場所を知ってびっくりしました。すぐ目と鼻の先にあります。もしCarabiniereの建物が当時から変わっていなかったとしたら，フレデリックは相当度胸があったのでしょうね。あるいはホテルにいることが憲兵たちに簡単に発覚してしまったのも，逮捕に向かうという話をバーテンダーのエミリオが聞きつけることができたというのも，実はこの地理関係が原因だったのでしょうか。

Carabiniereからもう少し歩くとすぐ目の前がマジョーレ湖です。意外にあっさりと着いてしまい，拍子抜けしたような感じです。『武器よさらば』では，フレデリックは雨の中をしばらく歩き始め，途中で馬車が通りかかるのに気づいて馬車に乗ってホテルに向かいますが，現代のタクシーだったらきっと乗車拒否されていたことでしょう。

4. マジョーレ湖

湖に出たとたん，雰囲気が一気に変わったという感じです。湖岸沿いにはそこそこ車通りのある太い道路が走っていて，湖を見渡すように豪華な五つ星ホテルがずらりと並んでいます。フレデリックが宿泊したホテルは湖に向かって左手に少し進んだところにあります。

ラパロの時ほど一般人を拒絶するような雰囲気はありませんが，それでも高級リゾートの雰囲気がぷんぷんしています。ラパロのときも，まるで山の上のお城と下界の貧民街というようなコントラストに驚かされましたが，今回は上下の地理関係は逆ですが湖沿いの低い場所だけに富が転がり落ちているような印象でした。

早速フレデリックがボートを漕ぎ出したと思われる地点に向かいます。相変わらず天気がよくないのですが，しかし小説の雰囲気にはこの方がよかったのかも知れません。湖の遠くの方には霞がかかり，対岸の山々がうっすらと山水画のように姿を現しています。フレデリックがボートを漕ぎ出したときは真夜中で，しかも嵐の中でしたが，その前にバーテンダーと湖に釣りに出たときにはちょうどこんなふうに見えていたのではないでしょうか。夏ではありますがあたりは肌寒く，「太陽は雲に覆われ，水は暗く，なめらかでとても冷たかった」という描写にぴったりです。

ラパロの時に懲りていますので，もう高級ホテルには近寄りたくありません。Iles Borromeesは下手をするとスプレンディードより高級ホテルのようですので，見るものは見たしさっさと駅へと引き返します。というよりミラノ行きの列車に乗り遅れたら入るのすらためらわれるような高級ホテルに泊まらなければならないハメになってしまうので……。おそらく1時間もいなかったのではないかというくらい短い滞在でしたので，今回は残念ながら乗れませんでしたが，マジョーレ湖を巡る遊覧船も出ているようで，次の機会があれば今度は乗ってみようかと思っています。

というわけで一瞬の滞在だったせいでたいしたことをお伝えできませんでしたが，次回はミラノ編です。こっちの方はもうちょっと時間をかけて見てきましたので，まだまともなことをお伝えできるかも。